



伊勢市議会だより

しせん

第83号

発行 伊仙町議会

〒891-8293

大島郡伊仙町伊仙1842

事務局 ☎ (0997) 86-3150

編集 議会広報編集委員会

印刷 ㈱奄美新生社印刷

紺綬褒章伝達式

(令和6年9月20日)

令和6年第3回定例会

議案審議結果	2P
一般質問	3～4P
現地調査	5P
県外視察研修	6、7P
議長の動静・編集後記	8P

令和6年第3回定例会（9月3日～12日） 議案・審議・議決結果

議案番号	件名	議員名(議席番号順)														議決結果
		井上和代	久保量	大河善市	杉山肇	牧本和英	佐田元	清平二	岡林剛也	上木千恵造	永田誠	福留達也	樺山一	美島盛秀	前徹志	
議44	面縄港整備等積立基金条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	—	原案可決
議45	鹿児島県後期高齢者医療広域連合規約の変更	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議46	伊仙町国民健康保険条例の一部を改正する条例	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議47	伊仙町肉用牛特別導入事業基金条例の一部を改正する条例	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議48	伊仙町特別養護老人ホーム「仙寿の里」指定管理者の指定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議49	伊仙町特産品加工工房指定管理者の指定	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議50	令和6年度伊仙町一般会計補正予算(第4号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議51	令和6年度伊仙町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議52	令和6年度伊仙町介護保険特別会計補正予算(第2号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議53	令和6年度伊仙町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議54	令和6年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計補正予算(第2号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
議55	令和6年度伊仙町上水道事業会計補正予算(第1号)	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	原案可決
認1	令和5年度伊仙町一般会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	—	認定
認2	令和5年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	認定
認3	令和5年度伊仙町介護保険特別会計歳入歳出決算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	認定
認4	令和5年度伊仙町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	—	認定
認5	令和5年度徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	—	認定
認6	令和5年度伊仙町上水道事業会計歳入歳出決算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	—	認定

令和6年第4回臨時会（9月17日） 議案・審議・議決結果

議案番号	件名	議員名(議席番号順)														議決結果	
		井上和代	久保量	大河善市	杉山肇	牧本和英	佐田元	清平二	岡林剛也	上木千恵造	永田誠	福留達也	樺山一	美島盛秀	前徹志		
同3	教育長の任命	投票による表決(投票総数12票 賛成12票 反対0票)														－	同意
議56	令和6年度伊仙町一般会計補正予算(第5号)	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	－	原案可決	

【表の見方】 承:承認 同:同意 議:議案 請:請願 陳:陳情 発:発議 ◎:全会一致 ○:賛成 ×:反対 欠:欠席 —:表決権なし

令和6年 第3回定例会

一般質問



美島 盛秀 議員

大久保町長の町政における姿勢について

問

伊仙町役場新庁舎建設2期工事について。

①入札の執行状況について問う。

答

工事については、かなり遅れている状況である。

(総務課長)

8月22日に開札を行っているが、不調。8月23日に再入札の開札を行っているが、全社辞退のため、入札が取りやめとなった。

問

令和2年計画時点での予算額が約23億円。完成予定が令和7年2月末であったが、完成の目処は立っているのか問う。

(総務課長)

答

今回の入札の不調を受け、令和6年11月頃まで、再積算を行う予定にしており、積算終了後、工事費の増額が見込まれる場合には、12月議会での提案を予定している。令和7年12月末完成予定を目指して、スケジュールを進めている。交付税措置等については、継続費の5か年が令和6年度で終了となるが、今後事故繰越となる見込みで、令和7年6月議会等で繰越の報告を行うことで、工事終了後には、交付税措置等もなされるものと認識している。

要望

来年度中に完成できるよう努力していただき、早期の完成を要望する。

問

伊仙町糖業振興会使途不明金問題における約1千400万円の回収はできるのか。振興会会長としてどう責任を取るのか問う。

(町長)

答

令和3年4月から9月までの6か月間、町長の責任として給料の50%減額を行った。現在、裁判中であるので、結果が出た中でいろいろな判断をしていきたいと考えている。

(経済課長)

使途不明金回収の可否については、司法の判断に従うことになると考えている。令和6年10月21日に原告を代表して私が証人尋問を受けることになっている。また、同日、被告2名に対して証人尋問が行われることになっている。

問

職員の綱紀粛正について。

中途退職者や退職を考える職員が増えていると聞かれるが、現状を把握しているのか問う。

(総務課長)

答

令和元年から令和5年までの自己都合による退職者は18名となっている。

(町長)

現在、若者の転職は多くなってきた傾向にあるが、伊仙町下においてもそのような傾向がある。この流れの中で、どのようにすれば魅力ある仕事だということなど、研究しながら指導していく事が重要ではないかと考えている。

問

町長を含む特別職や一般職、議会議員等は国民(県民・町民)の税金で優遇されていることについて。

町長の給与、賞与。交際費(香典料)1期4年間の退職金等について詳細を問う。

(総務課長)

答

給与、賞与については、伊仙町長の給与等は、伊仙町長の給与等

に関する条例第2条に基づき、算出されており、旅費、交際費についても条例また規則に基づいた支出となっている。また、退職手当については県市町村総合事務組合が事務を行っている。

問

伊仙町建設業協会の存在について。
建設業協会の存在を大久保町長はどのように認識しているのか問う。

(町長)

答

社会資本の建設や維持管理を通じて地域社会の発展を支えるとともに災害発生時において応急対応、復旧対応など、地域の安全安心の確保に協力をいただいている団体であると認識している。

(総務課長)

法人化されている団体ではなく、任意の団体であると認識している。任意団体の中での取り決めについては、把握していない。



福留 達也 議員

農業政策について

問

徳之島町においては、令和5年4月に、「有機農産物の生産から消費までを通して地域全体での有機農業に向けた取り組みを展開していく」という、いわゆるオーガニックビレッジ宣言を行っているが、本町農政は有機農業の取組みに今後どのように関わっていくのか問う。

(経済課長)

答

本町における有機農業の取組みについては、令和5年度において、みどりの食料システム戦略に基づく、有機農産物の生産体制確立事業を獲得している。馬鈴薯を中心に、有機栽培の推進と有機JASの取得

に取り組んできた。馬鈴薯においては、約2・1haのJASの認証、併せてショウガ、レモン、ニンニク等、様々な品目に対して、総面積で3・3haの認証を受けたところである。また、令和6年度においては、みどりの食料システム戦略緊急対策交付金で実施されているグリーンな栽培体系への転換サポート事業、通称グリサポ事業を獲得し、3か年かけて有機農業の推進を図っていく。

オーガニックビレッジ宣言については、有機農業実施計画を令和7年度中に終え、令和8年4月に宣言したいと考えている。

問

国や県が実施する農機具や農業用設備等の補助事業獲得に対し、担当課としてどのような態勢で臨み、そして町民の方へ周知しているのかを問う。

(経済課長)

答

栽培生産する品目によって対象となる機

械、また種類、事業参加の要件などがまばらであるため、基本的にはそれぞれの品目ごとに説明を行っている。例えば、畜産のクラスター事業等では、事業参加の要件を満たす農家の方々に全てに対して要望調査を发出し、園芸、糖業等においては、国、県の予算組の段階で補助事業の発出の可能性のある場合は、それぞれ栽培講習会等で案内を行っているところである。

要望

今後、農家が獲得しやすい国の補助事業等の情報を周知し、提供するとともに申請書等の書類に関する支援を行うなど農家に寄り添った取り組みを進めていくよう要望する。

離島医療における血液備蓄所の現状について

問

日本赤十字社からの委託を受けた民間の血液備蓄所が2018年に奄美大島から撤退し現在大島郡内には血液備蓄所が無い状態であるが、撤退後から現在に至るまでに緊急手術などの際に支障は出ていないのか問う。

(健康増進課長)

答

結論から言うと、支障はあると認識している。現在、奄美大島の病院やクリニックでは医療機関が直接、鹿児島市の県赤十字血液センターから血液を購入しなければならぬ状況になっており、その血液をオーダーして、離島に届くまで10時間の時間を要する。また、使い切ることがなければ、返品も融通もできない。廃棄しなければならぬ。肝心の血液が足りず、ボランティアに供給してもらおう生血輸血が後を絶たないような状況である。

問

当事案に関しては、奄美群島町村会並びに議長会においても要望を続けている問題であり、町として今後の離島医療のあり方についてどのように考えているのか問う。

(健康増進課長)

答

要望に対して、この回答が得られていない状況であれば、今後は、単独市町村ではなく、奄美群島それぞれの市町村において、国へ直接この要望をしていくという検討をし、全国の離島に広げられることができればと考えている。

生血輸血は、緊急的に供血者(血液提供者)を募り血液をその場で採取し、輸血すること。感染症などのリスクを伴うため、厚生労働省においても「特別な事情のない限り行うべきではない」とされている。

議会を傍聴してみませんか

次回の定例会(第4回)は、12月10日(火)から予定しております。

第4回定例会におきましても、「YOU TUBE LIVE」でのライブ中継や録画映像をご覧ください。是非そちらもご活用ください。

詳しくは、議会事務局までお問合せください。

電話番号 86-3150(直通)

令和6年第3回伊仙町議会定例会において 令和5年度伊仙町一般会計他5特別会計歳入歳出決算審査特別委員会について

（一部抜粋※委員長報告につきましては、町ホームページ「各種委員会」をご確認ください。）



去る、令和6年9月3日に特別委員会に付託されました令和5年度伊仙町一般会計他5特別会計歳入歳出決算は、9月5日から9月10日までの4日間、議長並びに議会選出監査委員を除く12名の委員で審査いたしました。

まず、9月5日に行われた現地調査について、委員並びに議長を含む13名で、令和5年度決算に係る主な箇所について現地調査を行い、町長をはじめ担当課長並びに担当職員から詳細な説明を受け現地調査を行いました。

調査場所は、事故繰越しにより令和6年3月に完成した喜念小学校新校舎、喜念浜駐車場トイレ、社会資本整備総合交付金を活用して令和5年度に改修された佐弁団地、海岸漂着物地域対策事業において清掃活動が行われていた花津川泊、伊仙町特産品加工工房までの全5か所の調査を行いましたので主な事項についてご報告と要望をいたします。

※事故繰越しとは、やむを得ない事由により事業が年度内に完了しなかった場合、翌年度に繰り越して実施すること。

喜念小学校校舎新增改築工事については、令和4年度予算で計上されていたが、実施設計の見直し等により事故繰越しとなり、令和6年3月に完成した。RC造2階建て、延べ床面積は1,081㎡で、総事業費が5億7,595万円となっている。喜念校区の黄色のカラーが目を引く印象的な新校舎になっていた。令和6年度内において、グラウンドを含めた外構工事を実施し全体の完成を予定しているとの説明であった。

本事業に関しては、事業繰越しの影響により2年連続で運動会が体育館で開催されるなど、完成をいち早く待ち望んでいた児童生徒や集落民の気持ちを考慮し、早急に事業完了されるよう要望した。また、喜念小学校のシンボルとして校庭中心部に立つアカギの木は事故防止等による理由から、今後伐採される予定であるとの説明であったが、ベンチ椅子や机として再利用し、今後も喜念校区民に親しんでもらえるよう検討してもらいたい。



海岸漂着物地域対策事業において清掃活動が行われていた花津川泊は、台風後ということもあり、多くの漂着物が回収されている状況であった。令和5年度実績として、町内12カ所の海岸において79トンの廃棄物が回収され、一般廃棄物と産業廃棄物に分別され処理されているとの説明がありました。また、令和5年度においては、町民や幼稚園児・小中学生・高校生によるボランティア清掃作業も行われ、環境保全に対する啓発活動も積極的に行っている状況であり、今後も継続して活動していただきたいと要望した。



令和6年度 伊仙町議会県外視察研修を実施しました

10月22日(火) 茨城県猿島郡境町 (株)さかいまちづくり公社

研修目的：地域公社による地域活性化の取組及びみふるさと納税・移住定住促進の取組
みについて

今回、私たちは茨城県境町にて、視察研修を行ってまいりました。この町は人口約24,000人。

現在、多くの自治体が抱える課題として「人口減少」、「高齢化社会」、「地域環境の変化」など、以前に増して地域経済が抱える問題は多岐にわたっておりますが、境町では官民が一体となった地域公社「(株)さかいまちづくり公社」を設立している。その地域公社が中心となって境町のメイン政策であるふるさと納税を軸とした地域活性化の取組が行われておりました。

研修では、(株)さかいまちづくり公社営業企画部長の竹内清澄氏により各種取組みについての講話を受け、その後、令和4年度地方創生拠点整備事業で整備されたオリンピックレガシー発信施設、全天候型の境町アーバンスポーツパーク、次世代人工サーフィン施設の見学を行いました。

境町での視察研修を通じて、次代を見据えた取組みが今後一層必要であることを痛感するとともに、境町での成功例を参考に、本町における地域活性化に向けた取組を進め、さらなる発展に寄与できるよう努めてまいりたいと考えております。



(株)さかいまちづくり公社 竹内氏による講話



境町アーバンスポーツパーク



オリンピックレガシー発信施設



人口サーフィン施設



境町議会議長と伊仙町議員団

10月23日(水) 東京都千代田区 認定NPO法人 ふるさと回帰支援センター

研修目的：移住者支援の取組みと近年の移住者の動向について

東京都有楽町駅前の東京交通会館 8 階にある当該法人は、「団塊世代が大都市からふるさとに帰る仕組みづくりを」と現在理事長を務める高橋公理事長が中心となり、農協、漁協、森林組合、経団体などの多くの団体が、ふるさと運動をきっかけに地方から日本を再生しようと支援し2002年に設立された全国唯一の移住相談窓口となっております。8階フロア全体に43都道府県1政令市のブースが設けられ、移住希望者向けの情報発信を行いながら必要に応じて各都道府県の移住相談員による面談を行い、移住セミナー等への参加、移住者の希望に沿った移住先を決め、各自治体へと繋いでいくという仕組みになっておりました。

鹿児島県担当の相談員の研修会の中では、近年徳之島を含め、離島への移住相談も増加傾向にあり、島出身者の3世にあたる孫ターンやパートナーの出身地として島への移住を検討される相談者も増加傾向にあるとのことでありました。

今回の研修を通して、我々議会としましても、今後、移住者支援の取組みについて地域の皆様と連携しながらさらなる充実を図る必要性を感じるとともに、一人でも多くの方が伊仙町へ移住されるよう努めてまいりたいと考えております。

※孫ターンとは、都市で育った人が祖父母のいる地方に移住することを指します。



研修会のような様子



8階フロアのような様子



鹿児島県ブース

議会の動き

令和6年第3回伊仙町議会定例会における諸般の報告（議長の動静）

動静期間：令和6年第2回定例会（6月14日）以降の分

※ 掲載されている行事以外にも、各種協議会及び集落行事等にも出席しておりますが、予めご了承下さい。

月	日	行 事 名	場 所	月	日	行 事 名	場 所
6月	24日	第1回伊仙町振興計画審議会	大会議室	7月	29日	奄美群島さとうきび価格対策協議会総会	奄美市
	30日	第46回大島支部消防操法大会	面縄港		30日	第3回臨時議会	議事堂
7月	18日	八街市議会行政視察	委員会室		31日	さとうきび夏植え出発式	伊仙町役場前
	18日	議会全員協議会	委員会室	8月	1日	令和6年度市町村政研修会	鹿児島市
	21日	徳田虎雄氏 お別れ会	徳之島町		14日	塩田知事来島に伴う交流会	徳之島町
	23日	令和6年度伊仙町商工スタンプ会通常総会	中央公民館		28日	第3回定例会告示	－
	25日	徳之島三力町議会議員連絡協議会第1回役員会	天城町		30日	議会運営委員会	委員会室
	29日	馬根小教職員住宅地鎮祭	馬 根	9月	2日	議会全員協議会	委員会室

第3回定例会(令和6年9月)は、9月3日から9月12日までの10日間、右記の日程で開催されました。

町長より、報告3件、議案12件、令和5年度決算認定案6件が提出され審議いたしました。

議決の結果につきましては、2ページに掲載しております。

月日	曜日	会議・休会・その他
9月3日	火	本会議
9月4日	水	本会議(一般質問)
9月5日	木	決算審査特別委員会(現地調査)
9月6日	金	決算審査特別委員会(室内審査)
9月7日	土	休会
9月8日	日	休会
9月9日	月	決算審査特別委員会(室内審査)
9月10日	火	決算審査特別委員会(室内審査)
9月11日	水	休会
9月12日	木	最終本会議

編集後記

近年、地球温暖化の影響が顕著になり、11月でも半袖で過ごすことができるほどの気温が続いています。また、全国的に地震や台風、ゲリラ豪雨などの自然災害が頻発し私たちの伊仙町でもいつ起こるかわからない災害に備えるが必要です。

さて、伊仙町の令和5年度の決算等を振り返ると、教育面では、全国学力学習状況調査（令和6年4月実施）の結果から、小学6年生 国語98・5、算数101・6で県平均並みの正答率を維持し、学力の定着が見られる一方で、中学3年生は、国語84・3、数学77・1、英語64・3の正答率となり、学力が定着しているとは言えない状況であります。今後は、保護者や教職員、教育委員会、町執行部、伊仙町議会、そして町民全体が一体となり、学力向上に向けた取り組みをしていくことが求められます。

さらに、令和5年度の出生児数は31名と減少が続いており、若者が住みやすい町づくりへの支援が急務です。畜産の価格低迷や飼料肥料の高騰などの課題も山積しているなか、伊仙町議会ではこれらの問題に対し活発な議論を行い、町の発展に尽力してまいります。

（文責：清 平二）

議会広報編集委員会

発行責任者 議長 前 徹志

委員長 大河 善市

副委員長 井上 和代

委員 永田 誠

委員 清 平二

委員 杉山 肇

